資料１－１

下越地域医療構想会議：令和２年３月

坂町病院　鈴木薫

Ⅰ：地域医療構想の目的

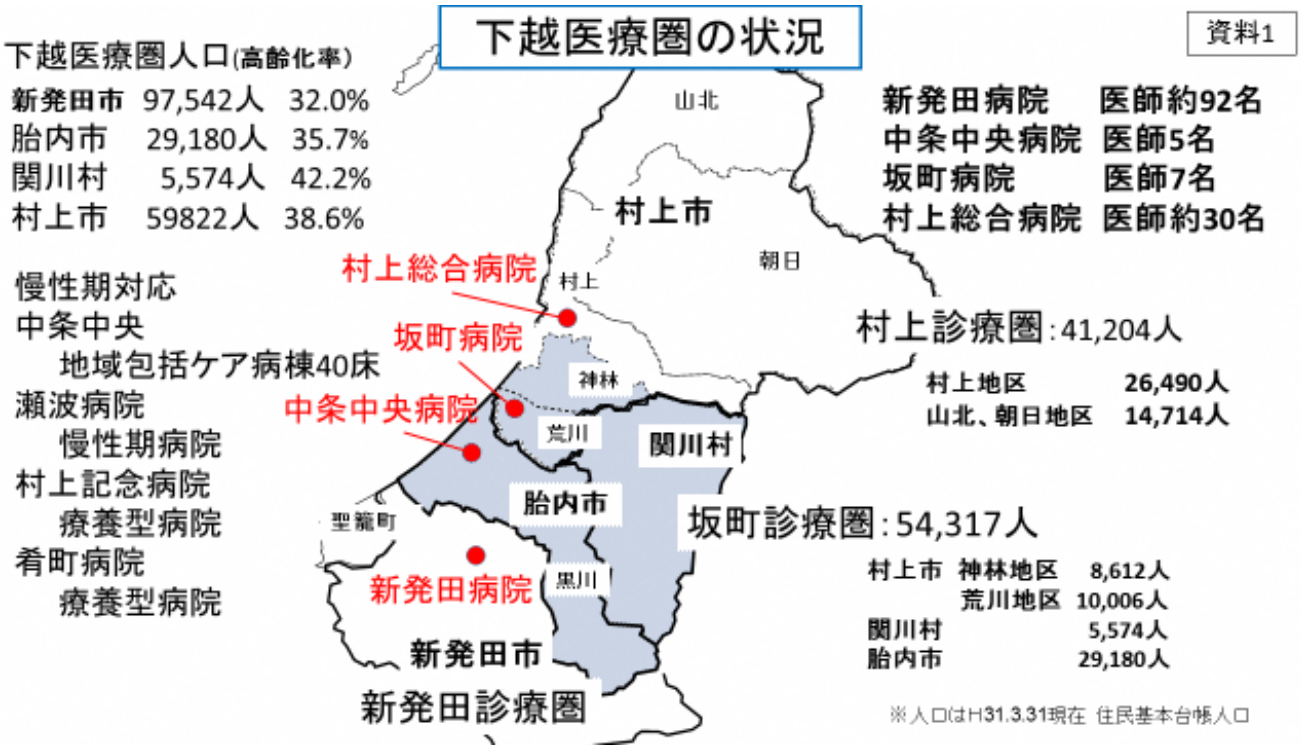
１：高齢化に備えた医療体制の整備

２：社会保障費の抑制

３：地方自治体の財政健全化：公立病院改革プログラム

☆地域の実情に適した検討を行う

Ⅱ：坂町診療圏の特徴



１：広範な診療圏に公共交通の便が悪い

バス、乗り合いタクシー等は坂町病院を基点の一つとしている

家族が出勤時に病院に患者を乗せてきて、その後出勤する例も多い

２：開業医が少ない

旧中条町、旧村上市以外：皮膚科、泌尿器科、耳鼻科の開業医不在

胎内市以北に専門内科の開業医が少ない：循環器、消化器等

☆高齢者は複数の診療科を受診する事が稀ではない

３：開業医の高齢化が進行：新規開業（特に内科）が少ない

４：中規模以上の病院へは紹介状がない場合、受診抑制方向

開業医の少ない地域では専門的検査（胃カメラ、心エコー等）を受ける為に複数の医療機関の受診が必要となる

５：慢性期患者の高齢化：慢性期状態から急性期医療が必要となる例の増加

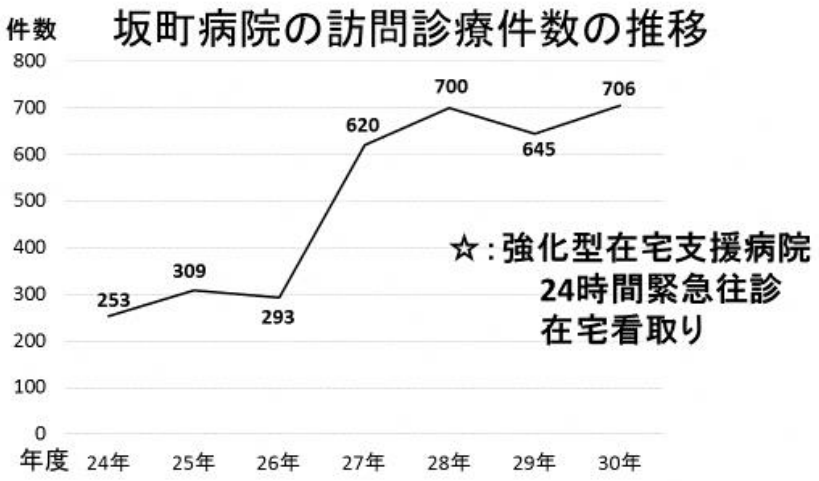
Ⅲ：坂町病院の機能低下時の対応は可能か？

１：外来機能低下：複数の診療科を受診する患者の受診手段は？

現在は坂町病院で複数の診療科を受診している：１か所の受診ですむ

☆行政は受診方法の援助が可能か？

２：訪問診療は医師会で可能か？：国は開業医が行う事を想定



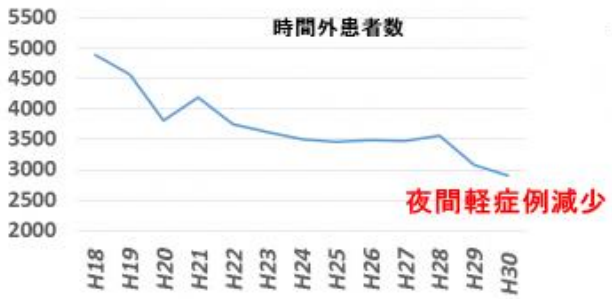


３：時間外患者、救急車対応を医師会、新発田病院で対応可能か？

平成２０年代前期：新発田病院が対応できない場合、坂町で対応

新発田市の救急車年間５０台以上→現在は減少

新発田病院の救急車患者増加した場合の受入れ病院は？



地区別時間外患者数（29年度）

村上南部	1170人(1279人)
胎内市	820人(802人)
関川村	451人(430人)
村上北部	235人(306人)
新発田市	31人(40人)
他地区	125人(124人)
総計	2912人(3078人)



地区別救急車件数（29年度）

村上南部	191台(184台)
胎内市	218台(213台)
関川村	129台(114台)
新発田市	12台(33台)
村上北部	61台(48台)
他地区	29台 (25台)

☆胎内市の救急車が最多：新発田病院との役割分担による：新発田病院で対応可能か？

Ⅳ：県の当面の方針

１：新発田病院の後方病院の役割

２：村上病院との役割分担の明確化

３：病床機能の転換

具体的対応

１：次期院長が病院局と協議して決定

２：鈴木の個人的見解

１：村上病院との役割分担

坂町病院は高齢者医療に特化

村上病院からの慢性期患者の受入れ：村上市南部、関川村の患者　内科対応必要例

２：稼働率の低下

病床削減：１０%以上削減　　回復期病床：１０%以上の病床の機能転換

急性期病床：高齢者急性期入院（外来　紹介例：開業医、施設等）

慢性期患者増悪例　状態不安定な転院例　高額薬剤服用例

回復医病床：リハビリ　介護との調整

３：外来機能、訪問診療機能を維持：医師数によって変動

４：時間外患者、救急車受入れ対応：なるべく維持：医師数による

５：経営母体の変更：変更後の機能、不採算の現在の医療機能を維持するか等の検討？